

# 長法寺遺跡

## —第2次発掘調査

現地説明会資料

平成17年7月2日(土)午後1時～



### はじめに

中ノ川左岸には鈴鹿南西部丘陵地と呼ばれる丘陵地が広がっています。大部分は小さな谷によって複雑に侵食され鋸歯状をしています。長法寺遺跡は中ノ川に向かって張り出した幅70m程の舌状の丘陵上の平坦地に立地しています。周囲の丘陵上は現在もほとんどが山林であり、確認された遺跡はごく少数です。丘陵上の高まりが数ヶ所古墳とされていますが、多くは自然地形と考えられます。唯一、奥北代古墳群が家型埴輪や須恵器の出土により6世紀初頭の古墳と確認されています。丘陵の先端には中世城館跡である三宅城跡、西側の谷を挟んだ丘陵上に長法寺城跡が立地しています。丘陵の東側では、乙部遺跡で旧石器時代の石器の散布が確認され、石塚遺跡で埴輪焼成遺構が確認されています。丘陵の南西、長法寺の集落の南側には低位段丘が広がり、加和良神社遺跡・古墳群、桑名垣内遺跡など古墳時代から中世にかけての集落遺跡、古墳が分布していますが、弥生時代のまとまった集落遺跡は確認されていません。

平成9年度に老人福祉施設建設にともない、実施した第1次発掘調査では弥生時代中期の方形周溝墓5基、中世の掘立柱建物、焼土坑などが検出されています。方形周溝墓の周溝からは弥生土器、石器(石鏃、石小刀)が出土しました。

### 調査結果

今回、老人福祉施設増築にともない、発掘調査を行いました。調査地は老人福祉施設の建物の西側、台地の西縁に位置し、北から南へ緩やかに傾斜しています。第1次調査・Ⅲ区の西側が一部重複しています。

### 遺構

第1次調査で検出した方形周溝墓の周溝の続きを確認し、新たに、方形周溝墓2基を確認しました。

**方形周溝墓 SX04** 第1次調査では周溝の北東辺と北西辺を検出しました。今回検出したのは南西の周溝にあたります。9m×11mほどの規模になります。周溝SD0208は幅4mの規模で方形周溝墓SX07と溝を共有します。

**方形周溝墓 SX05** 第1次調査では周溝の東辺を検出しました。今回の調査では続きにあたる周溝SD0206(北辺・西辺)・SD0211(南辺)を検出しました。9m×8.5mの規模になります。周溝SD0206からは完形の壺形土器が出土しています。他にも周溝内からは石鏃が出土しています。

**方形周溝墓 SX06** 調査区の北側で今回新たに検出した方形周溝墓です。5m×6mほどの規模になります。周溝SD0201・SD0202・SD0203に東・西・南を囲まれ、北溝は調査区外に続くものと思われます。周溝からは土器や石器が多数出土しています。周溝SD0201からは水晶の剥片が出土しています。また、周溝SD0202からは倒立した状態で置かれたと思われる甕形土器が出土しています。

**方形周溝墓 SX07** 方形周溝墓SX04の南で検出しました。周溝の東辺(SD0209)、西辺(SD0210)を検出しましたが、南辺は見つかっていません。東西5mの規模になります。北辺は方形周溝墓SX04の南西溝にあたるSD0208を共有しています。周溝SD0209からは壺と磨製石斧が出土しています。

### 遺物

**弥生土器** 方形周溝墓の周溝埋土から出土しています。第1次調査では出土量が非常に少なく、供献土器とは考えがたい状況でした。今回、完形の細頸壺や倒立した状態で置かれたと考えられる甕などは墓に供献されたものと考えられます。細頸壺は頸部から体部にかけてヘラによって文様が刻まれています。倒立した状態で出土した甕の底部には穴が空けられています。

**石器** 方形周溝墓の周溝埋土からサヌカイト製の石鏃・剥片や水晶の剥片が出土しました。

### まとめ

中ノ川下流でイノシシやシカなどが描かれた磯山銅鐸が出土していますが、中ノ川流域では弥生時代の遺跡の発見例が少なく、貴重な成果が得られました。調査地では、2次にわたる調査で方形周溝墓7基を確認しました。この地に墓を営んだ人々の集落については台地の周辺に存在したと考えられます。

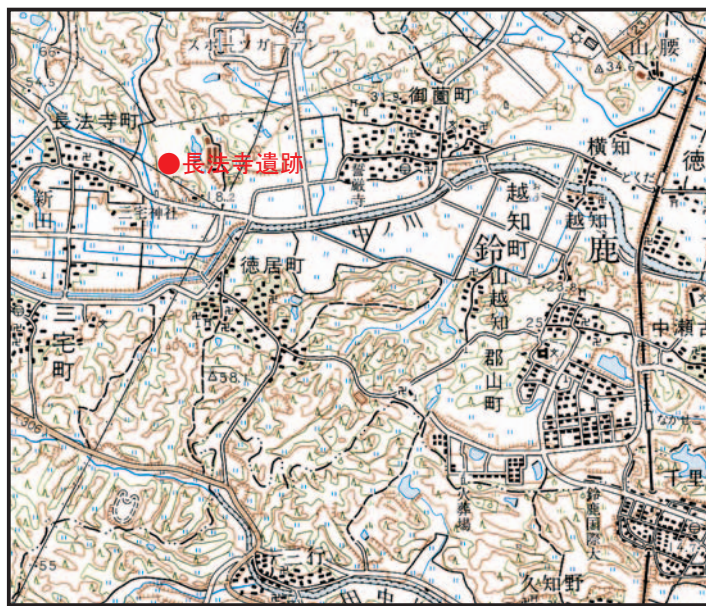




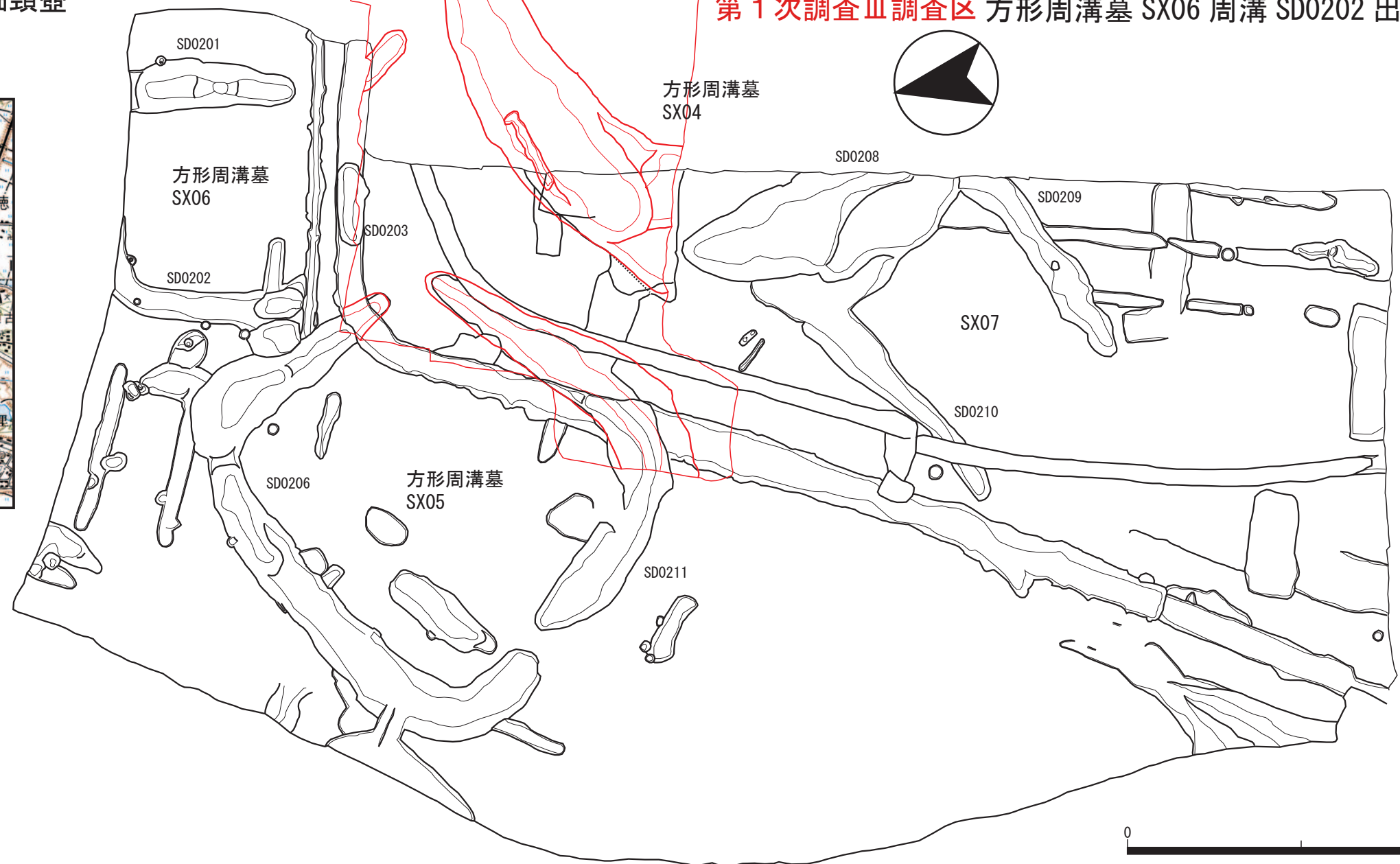
方形周溝墓 SX05 周溝 SD0206 出土細頸壺



1997年  
第1次調査Ⅲ調査区 方形周溝墓 SX06 周溝 SD0202 出土甕



長法寺遺跡の立地 (1/50,000)



長法寺遺跡第2次発掘調査遺構平面図 (1:150)